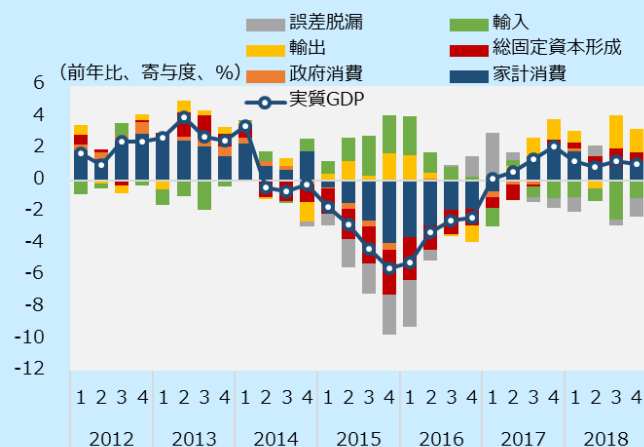


# ブラジル：GDP成長率（2018年10-12月期）

## ー成長は前年比1.1%に減速、構造改革が課題ー

*MRI Daily Economic Points*  
March 6, 2019

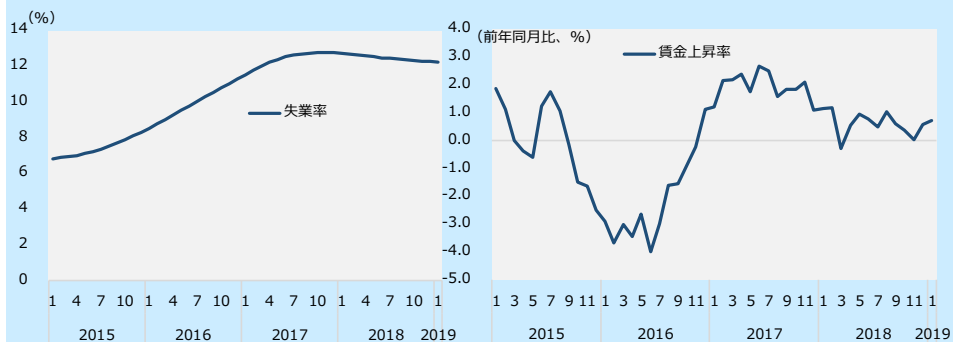
図表1 GDP成長率



出所：CEIC、BIGSより三菱総合研究所作成

図表2 失業率

図表3 平均実質賃金



注：12か月移動平均

出所：CEIC、BIGSより三菱総合研究所作成

### 評価ポイント

#### 今回の結果

- ブラジルの10-12月期のGDP成長率（前年比）は、+1.1%と4-6月期の+1.3%から伸びは鈍化。
- 需要項目別に前年比寄与度をみると、まず投資の寄与が+0.8%と前期の+1.2%から緩やかに縮小。輸出の寄与も+1.5%と、前期の+2.0%からは低下。背景にはアルゼンチン向け輸出が前年比44%減少したことなどが考えられる。輸入は▲1.1%と前期と比べマイナスの寄与は縮小したが、輸出の減速によって純輸出のプラスの寄与は低下した。また、家計消費の寄与は同+1.0%で僅かに拡大。背景には通貨安の歯止めとインフレの鎮静化がある。

#### 基調判断と今後の流れ

- ブラジル経済の先行きは、2019年にかけて緩やかな成長を見込む。理由として米中貿易摩擦の影響が顕在化し輸出を下押しする一方で、ボルソナロ大統領の公社民営化、汚職対策などの構造改革が国内外の投資家の信頼感を高め投資促進につながることで、緩やかな回復基調が今後も続くと見込む。
- 金融政策については、これまで政策金利を6.5%に据え置いてきたが、インフレ率が安定的に推移しているため、今後景気下支えのための利下げの可能性がある。なお、2月28日中銀総裁にペト氏が就任したが、ボルソナロ大統領と一致して物価の安定と政府支出の抑制を優先とする堅実な姿勢を示した。
- 下振れリスクとして、海外起因および国内起因のリスクの双方に注意が必要。まず海外起因のリスクとしては、①世界的なリスク回避姿勢の高まりに伴う通貨安と資本流出圧力の高まり、②原油価格上昇に伴う燃料価格高騰、③アルゼンチン経済のさらなる悪化の三点があげられる。
- また国内起因のリスクとしては、①ボルソナロ大統領の年金等構造改革の取り組みの成否、②高い失業率（図表2）や賃金上昇率の減速（図表3）に伴う消費の悪化の二点があげられる。